

新中学校開校準備委員会だより No.15

令和6年2月

修善寺・中伊豆・天城地区新中学校開校準備委員会事務局（伊豆市教育委員会学校教育課内）

伊豆中学校の校章案が決定しました！

昨年の6月から7月にかけて募集を行った校章のデザインについて、1月25日（木）に開催された第16回新中学校開校準備委員会において決定しました。

このことを受け、2月9日（金）に開校準備委員会から教育長に校章案の答申が行われました。

答申は中伊豆支所教育委員会室で行われ、原委員長、佐藤副委員長、植松副委員長が出席し、原委員長から鈴木教育長へと答申書が手渡されました。

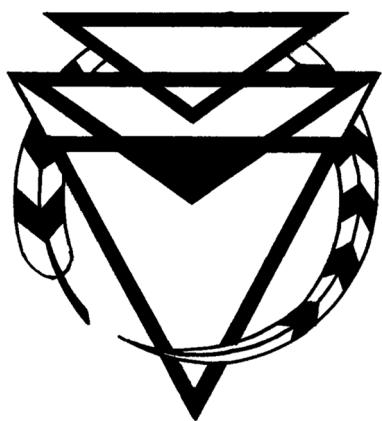
答申の内容は、伊豆中学校の校章案と制服につけるエンブレムのデザイン案、体操着につけるマークのデザイン案の3点です。これらのデザイン案は月末に予定されている定例の教育委員会で審議され、承認を受けて最終決定となります。

これから市民の皆様の目に触れる機会も多くなってくると思いますが、伊豆中学校に通う子供たちはもちろんのこと、多くの市民の皆様にとって親しみのあるデザインになることを願っています。



原委員長から答申書を受け取る鈴木教育長
2月9日中伊豆支所にて

《校章案》



修善寺、中伊豆、天城の3中学校をそれぞれ三角形で表現し、一つになる様子を表した。その形は伊豆半島の姿となり、中央は伊豆中学校の位置を示す。

三角形の重なりが「矢じり」のような鋭い思考や感性を表す一方で、伊豆市の鳥であるキジの尾羽を曲線的に描くことで協調性を表している。

校章案作成に係る経緯について

昨年6月から7月にかけて校章募集を行ったところ、市内小・中学校の児童生徒より208作品、伊豆総合高校の生徒及び一般の方より39作品、計247作品の応募がありました。

左図の校章案は、応募作品を参考に、デザインに関する知見をもつ校章作成委員会が再構成し、新たなデザインとして提案したものです。

単純にデザインを組み合わせるのではなく、応募作品に込められている思いをできるだけ生かすことを主に考えました。それらは、修善寺・中伊豆・天城の3地区の中学校が1つになって新しい中学校をつくっていくことや伊豆市の豊かな自然の恵みを表現したもの、共に助け合い、未来に向かって羽ばたくようすをイメージしたものなどが挙げられ、新しい校章のデザインに生かされています。

制服のエンブレムや体育着のマークも決定

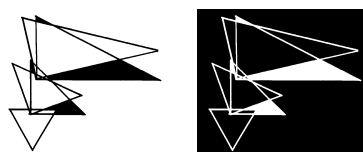
制服につけるエンブレムと体育着のマークのデザイン案については、対象学区の小学校4年生から中学校1年生までの児童生徒が複数の候補から投票し、その結果を参考に決定しました。80%を超える児童生徒が投票に参加し、自分たちが身に付けることになるエンブレムや体育着のマークについて自分事として考えることで、参画意識を醸成することにもつながりました。

制服のエンブレム



校章案を基に表現した。枠は盾の形にし、己を自分で守れる生徒になってほしいという願いをこめた。

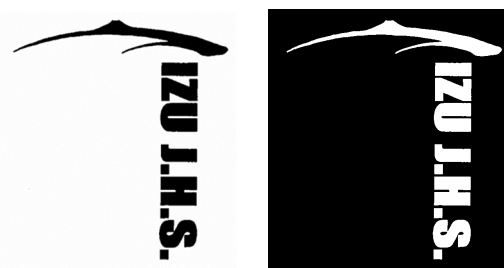
体育着（前・左胸部）



※左は白色の生地用、右は紺色の生地用

3つの三角形で3地区を表現し、輝き、集まり、躍動する様子を表した。

体育着（後・背面）



背の上部、肩に表した形は、伊豆半島から見える富士山と駿河湾を簡潔に表現した。また、その形を漢数字の「一」に見立てることでトップを目指してほしいという思いをこめた。

令和6年度からの実施に向けて話し合いました

4時30分下校で子供たちの放課後の過ごし方はどう変わるのか？

市内3つの中学校と土肥小中一貫校では、令和6年度から下校時刻を午後4時30分にそろえ、教育課程を工夫することで、授業時数や部活動の時間を確保しながら、放課後の時間の使い方を生徒自らが選び、主体的に活動する力を育成（※）していきたいと考えています。

今回、開校準備委員会でもこの話題を取り上げることで、学校・家庭・地域がどのように連携・協力していくことができるかを探ってみました。結論は出ませんが、そこで出たいくつかの意見を紹介します。準備委員会だより読者の皆様もぜひ一緒に考えていただければ幸いです。

楽しく遊んでしまう子供と何かに使おうと考える子供に分かれるような気がします。

クラブチームに参加する子供も増えており、早く帰りたい子供や無所属の子供もいます。

疲れがたまりやすい夏場は、部活動が早く終わることで適度な休養がとれます。日没が早い冬場は、日課の工夫で部活動の時間が確保できると思います。

図書館で読書をしたり、こども園で小さな子供たちの面倒を見たりすることも可能になります。

部活以外の選択肢ができ、子供たちの活動がより多様化することが見込まれます。

先生方の働き方改革の視点でも必要なことだと思います。ゆとりができることで質のよい教育を提供できると思います。

新中学校になると通学距離が長くなるため、家に帰るのが遅くなる子供たちへの対策も必要です。

※この取り組みの背景として、一つには少子化が進み学校部活動の運営が困難になっている状況が挙げられます。団体競技では人数がそろわない、専門的な指導ができる教員を確保できないといったことから、これまでの仕組みを見直す必要が出てきています。そのため、今年1月から学校部活動在り方検討委員会を立ち上げ、協議を始めています。